

【※※趣旨説明....】

企業・個人を問わず『経済活動は常に自己責任の元に行われる』この事は、従来もこれからも、当たり前的事と言えます。

ただ近年は、今まで、国任せでも良かった、医療や老後の備えなどに対しても、「自助努力」と「自己責任」が必要な時代になって来ました。

更に、ここ最近『景気の後退と物価の上昇が同時進行する』いわゆるスタグフレーション傾向も強まりつつ有り、景気後退により収入の増加は厳しく、同時に、物価上昇により預貯金は相対的に目減りする。私値はそんな環境の中に放り出されている。と、言って過言では無いでしょう。

こうした中でも、私達は、企業および従業員と自らの、財産と生活を守って行かなくてはなりません。

資産を増やせるなら、それに越した事は無い。同時に、減る事は避けたい。

出来る事なら、自分に有った効果的な方法で資産を運用したい。

誰もがそう思うでしょう。また、これまでもそしてこれからも多くの『甘い誘い』も、やって来るでしょう。

今回の部会発表では、様々に幅広い『資産運用方法』の中から、いわゆる『金融商品』を取り上げて見ましたが、取り組んで見ると実に奥深く難解な物でも有りました。

金融商品による資産運用については、元々が門外漢で有り、また、無意識にある時は意識的に避けてきた私達が、投資対象としての金融商品の一つ一つを、すっきりと説明する事は叶いませんが、ホンの一端でもご紹介出来れば... との思いで、準備して来ました。

また、本日は、ファイナンシャルプランナーとしてご活躍中の、有限会社ウェルスアンドブリス 代表取締役の蛸子宏一（えびこひろかず）様に講師をお引き受けいただき、例会の後半で、資産運用のプロの立場からの講演も頂ける事になっております。

自己責任を全うする為に必要な条件の一つとして、行動した、または、行動しなかった結果を想像出来るかどうか。と言う事が有るのかも知れません。そのためにも、結果を想像するために必要な情報収集は不可欠では無いかと考えます。

『資産運用』を登山にたとえる事は適切では無いかも知れませんが....、

散歩がてらに出かけても充分安全に堪能出来る山が目の前に有っても、登山と言うだけで過大な危険が有ると思ひ込み、その道を自ら閉ざす事が有るとすれば、それは勿体ないだけかも知れません。

ですが、充分な情報収集と準備の無いまま、ハイキング気分で雪山登山に向かうと言う事も、それ以上に避けなければならない事だと言えるでしょう。

すぐに資産を増やす事を目的に行動を起こすかどうかはさておき、本日の例会が、実際に資産運用を検討される時の、判断材料の一助になれば... と、思います。

【※※資産運用をはじめる前に知っておきたいこと※※】

『安全性・流動性・収益性』

具体的な話の前に、金融商品の性格をきめる3つの要素としての「安全性」、「流動性」、「収益性」にふれておきたいと思います。

この3つ性格を理解し、目的や計画に合わせ、どの要素を重視するかが投資商品を選ぶ上では大切な事と言えます。

安全性ですが、簡単に言うと、元本が保証されているかどうか。と言う様な事です。高い収益が見込める金融商品であっても、元本割れを起こす可能性が有る物は「安全性」の観点からは優れた物とは言えません。

次に流動性、これは、必要な時すぐにお金が引き出せるかどうか。と言う事です。お金を引き出す時に、かなり以前からの事前連絡が必要で有ったり、引き出せない期間が有る、また、中途解約が出来ない物などは「流動性」が高い商品とは言えません。

そして収益性ですが、これは、より高い収益が期待できるか。と言う事です。いつでも引き出せて元利金が保証されていても、高い利回りが得られない物は「収益性」が高い商品とは言えません。

以上が、金融商品の性格を決める3つの要素です。

それでは、次にそれぞれがどんな関係にあるのかを見てみましょう。

安全性と収益性ならびに、流動性と収益性は、相反する関係と言えます。一般的な傾向として「安全性」が高くなるにつれ「収益性」は低くなり「収益性」が高くなるにつれて「安全性」は低くなる。と、言われています。

同様に、「流動性」が高くなるにつれ「収益性」は低くなり「収益性」が高くなるにつれて「流動性」は低くなる。と、言えます。

【※※一口に金融商品と言っても色々※※】

安全性と収益性の観点だけで見ても、様々な金融商品があります。

少々乱暴な分け方になりますが、金融商品資産運用を「リスク無し」「低リスク」「中リスク」「高リスク」の4つのゾーンに分けて、それぞれのイメージを見てみたいと思います。

【※リスク無し・低リスクゾーン】

*始めにリスク無しゾーンのイメージです。
このゾーンの金融商品は、元本が保証され、時間の経過と共に非常に緩やかに元本が増加して行きます。

代表的な商品は、預貯金(注1)・国債(注2)・公社債(注2)などです。

- ・注1：預金保険の範囲内。
- ・注2：満期まで保有した場合。

*次が低リスクゾーンのイメージです。
このゾーンは時間の経過と共に緩やかに元本が増加して行きます。リスク無しゾーンの金融商品と比べ増加率は高いと言えます。但し、ごく希に元本が減少する事も有ります。
代表的な商品として、地方債・社債・安全性重視型の投資信託などがあります。

【※中リスク・高リスクゾーン】

*続いて中リスクゾーンのイメージになります。
このゾーンは、元本が大きく増加する可能性が有る一方、元本割れの可能性も高い物になります。但し、元本割れの損失が投資額を上回る事は有りません。
代表的な商品として、株の現物取引・外貨預金・収益重視型の投資信託などが有ります。

*最後が高リスクゾーンのイメージです。
このゾーンは、元本が激増する可能性が有る一方、投資元本を超える損失が発生する可能性も有る物になります。
代表的な商品として、株の信用取引・外貨証拠金取引・商品先物取引などが有ります。

続いて、ここまでに名前が出た金融商品の中から、『株式取引』『外国為替信用取引』『投資信託』を取り上げ、簡単にですが、取引の仕組みなどをご紹介します。

【※※解っちゃいるけど改めて※※】

株取引の具体的な方法に入る前に...、
今更ではありますが、株式会社の仕組みを「おさらい」しておきたいと思
います。

株式会社は資本を出資した『株主』と株主から経営を任された『取締役』
で成り立っています。『株主』は資本を出資した分ずつ会社を所有してい
る。と、言う事になります。

【※※株を買うとどんなメリットが有るの※※】

株式投資で利益の出る仕組みですが、大きく2つ有ります。

一つめは、株主の権利としての利益配分です。
会社の所有者としての株主には、会社の業績に応じて、株主配当や株主優
待などの利益配分を受ける権利が発生します。

二つめが、持ち株を売り買いして売買差益を得る事が出来る事です。
『株投資』の一般的なイメージはこちらの方が大きいかもしれませんが。
ごく簡単に言ってしまうと、株を、買った値段よりも高く売る事で、その
差益を得る。と言う事ですね。

【※※株式取引の方法※※】

では、証券会社を通して株を購入する方法などを簡単にご説明します。

まず最初に、証券会社に『証券取引口座』を設け、この『口座』にお金
を振り込みます。

- ・証券会社を通して行う株式購入代金の支払や売買で発生する差益は、
この『口座』に入出金されます。

『証券取引口座』の準備が出来たら、取引する株式の銘柄を決め、証券
会社に売買の注文を出す事が出来ます。

【※※売り買い注文の方法※※】

で... 実際の注文の出し方ですが、大きく分けて『指値注文』と『成り
行き注文』の二通りが有ります。

*指し値注文とは....

買ったり売ったりする価格をあらかじめ指定して行う注文方法です。

- ・望んだ価格で取引する事が出来ますが、売買が成立しない可能性も高
くなる注文方法です。

*成り行き注文とは..

買ったり売ったりする価格を指定しない注文方法です。

- ・予想外の高値で買ってしまったり、思わぬ安値で手放してしまう可能性も有りますが、売買成立の可能性は高い注文方法です。

こうして出された注文は、証券会社を通じて証券取引所に出され、証券取引所に於いて実際の売買が行われます。

【**注文成立の基本原則**】

実は、証券取引所に出された注文の全てが無条件に成立する訳では無く、売買成立には幾つかの基本原則が有ります。

まず、一番目の基本原則は、取引は証券取引所の『取引時間』内にのみ行われる。と、言う判りやすい物です。

で、時間内に出された売買注文が全て成立するのか？と言うと、実はそうとは限りません。

売買注文の数が同数だった場合は全てが成立しますが、それ以外の場合は成立しない注文が発生します。

例えば、買い注文100株に対して売り注文が70株だった場合。売り注文は全て成立しますが、買い注文の内70は成立し30は成立しない事になります。

この成立する70の買い注文を選別するのが『価格優先の原則』と『時間優先の原則』と言う二つめの基本原則です。

*『価格優先の原則』とは...

買い注文は高い物が、売り注文は安い物が優先され、同じ価格の場合は成り行き注文が指し値注文に優先される。と言う決まりです。

*『時間優先の原則』とは...

価格条件が同じ場合には、注文時間の早かった物が優先される。と言う決まりです。

【**その他... **】

そのほかにも、株式取引を考える時に覚えておきたい事は色々有りますが、その一部を上げさせて頂きます。

まず、一端成約した取引を取り消す事は出来ない。と言う事が有ります。

それと、売買の都度『売買手数料』が発生する事も忘れないで下さい。

この『売買手数料』は証券会社により異なるので、事前に十分な確認と比較が必要です。また、『売買手数料』が安い代わりに、その他のサービス内容が貧弱だったり制約条件が多い。など、利用しづらい事が無いかな？等も併せて検討した方が良いでしょう。

それから、取引方法では、証券会社の店頭電話で注文する方法の他に、自宅や会社のパソコンからでも可能な『オンライントレード』などの取引方法も有ります。

また、最初の方でちょっと触れましたが、株取引は株式銘柄毎に決められた単位と言う単位で行う事が基本のため、単位が千株で時価千円の株を買うためには、最低でも百万円が必要となり、個人投資家には敷居が高い物でしたが、... 個人投資家などが、手元の少額な資金からでも株式取引への参加が可能な取引方法として『ミニ株』『株式累積投資』（るいとう）なども有りますので、検討して見ても良いでしょう。

ここまで紹介した株式取引は『現物取引』と言う方法で、お金と現物の株券を交換する方法のため、仮に、思惑通りの値動きや株主配当が無かった場合でも、投資額を上回る損は発生しません。

株取引には『現物取引』の他に『信用取引』と言う取引方法が有り、仕組みの詳細は省きますが、この『信用取引』は、投資額に比較して大きな利益を得る事も可能ですが、投資額を大きく上回る損失が発生する可能性も有る取引方法になります。

もし『信用取引』を検討するとしたら、十分な覚悟と周到な準備が必要だと思います。

【※※証券市場... ※※】

株式取引の最後に、一般的な投資家が売買出来る株式についてふれます。

基本的には、国内6ヶ所の証券取引所に上場されている株式と、主に創立から間もない新興企業の株式の売買行なう証券市場(これも現在6ヶ所)に登録株式に限られます。また、証券取引所では、資本金や企業規模などを基準に、一部上場・二部上場と言う一種の「格付け」も行われています。

非常に大雑把にそれぞれを安全性と収益性で特徴付けて見ると... 二部上場株よりも一部上場株の方が安全性が高く、新興企業を対象にした証券市場登録株よりも証券取引所上場株の方が安全性が高い。と考える事も出来ると思います。

些か極端ですが、例えば、安全志向の株式投資ならば、証券取引所一部上場から銘柄を検討し、収益指向ならば証券市場登録の新興市場から銘柄を検討する。と言う様に考える事も出来かもしれません。

決して解りやすいご説明には成って以内部分も多かったと思いますが、
以上で株式投資についての説明を終わらせて頂きます。

証券取引所：東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、
札幌証券取引所、福岡証券取引所、ジャスダック証券取引所
証券市場：東証マザーズ、大証ヘラクレス、セントレックス
Q-B o a r d、アンビシャス N E O